

保育者養成校における「こどもと健康」と「保育内容の指導法（健康）」との科目間の繋がりについての一考察 ——安全管理とその指導，健康管理とその指導に着目して——

岩本 圭子★

帝京短期大学 こども教育学科

【抄録】

本稿では、健康の領域論「こどもと健康」の安全管理，健康管理と「保育内容の指導法（健康）」の安全指導，健康指導に着目し，科目間の繋がりについて考察した。安全管理では，「こどもと健康」は，基礎的知識を踏まえた上で，体験的な活動を通してリスクの意味とハザードの意味を理解し，その対応を考える内容で，「保育内容の指導法（健康）」では，実際に起きる可能性のある危険について，子ども自身が理解するために，安全指導実施していく内容であった。健康管理では，「こどもと健康」は，病気の実態や病気の基礎的メカニズムについて理解し，病気の予防方法を考察するといった内容で，「保育内容の指導法（健康）」では，それらの病気を予防するために，手洗い方法や歯みがき方法を子ども自身が理解し，実践していく内容であった。

以上より，「こどもの健康」「保育内容の指導法（健康）」で科目内容の方向性が違ってしまうと，学生が一貫性をもった実践の学びが得られず，保育者として現場に立ったとき，領域「健康」のねらいや内容について，子どもに指導するのは困難であることが窺えた。このことから，科目担当者は一貫性をもった授業を展開していくことが求められる。

【キーワード】 こどもと健康，保育内容の指導法（健康），健康指導，安全指導，科目間の繋がり

I. はじめに

平成29年度告示の『幼稚園教育要領』，『保育所保育指針』，『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』では，3歳以上の幼児教育に関する記載がほぼ共通化された。とりわけ『保育所保育指針』においては，第1章「総則」の4「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」では（1）育みたい資質・能力と（2）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）が示され，また第2章「保育の内容」の3歳以上児の保育では，「ねらい」と「内容」及び「内容の取扱い」が5領域で記述されている。これは保育所が，幼稚園や幼保連携型認定こども園と同じ水準で幼児教育を実施していく役割をもつことを意味している。さらに幼児期に育みたい資質・能力では「知識及び技能の基礎」「思考力，判断力，表現力等の基礎」「学びに向かう力，人間性等」の「生きる力」基礎となる3つの柱が示され，「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域を踏まえた幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿についても示された。

保育者養成校では，平成29年11月の教育職員免許法施行規則¹⁾の改正により，これまでの幼稚園教諭養

成課程の「教科に関する科目」と「教育課程及び指導法に関する科目」が同じ区分となり「領域及び保育内容の指導法に関する科目」イ領域に関する専門的事項，ロ保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）と改められた²⁾。「領域に関する専門的事項」では，幼稚園教育要領で定められている健康，人間関係，環境，言葉，及び表現の「領域に関する専門的事項」について習得することが必要とされている¹⁾。その内容は，各領域に関する専門的な内容を深める知識や理解，技術等の習得であり，その考え方として，保育教諭養成課程研究会は「領域について，領域それぞれの学問的な背景や基盤となる考え方を学ぶことを基本とする。幼稚園教育において「何をどのように指導するのか」という視点で見たときの「何を」を深める部分である。幼稚園教育要領に示されているねらい及び内容を含めながら，これらに限定されることなく，より幅広く，より深い内容が求められる³⁾と紹介している。また「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」では，教職課程コアカリキュラムが示され，全領域の保育内容の指導法で共通して習得すべき資質能力を示しており，それにそって5領域のねらいや内容を踏まえた上で，5領域

毎の保育内容の指導法で実践すべき力を身に付けることを目指している⁴⁾。5 領域について着実な実践力をもった幼稚園教諭を養成することを目指した新教育課程では『領域及び保育内容の指導法に関する科目』を領域論と指導法の両側面から修得する形となったといえよう。

そこで本稿では、現在筆者が担当している健康の領域論「こどもと健康」の安全管理、健康管理と「保育内容の指導法（健康）」の安全指導、健康指導に着目し、科目間の繋がりのある方について考察する。実践力をもった保育者を養成するために、領域論と指導法との科目間の繋がりについて考えていきたい。

Ⅱ. 「こどもと健康」の授業内容

保育教諭養成課程研究会では、教職課程のシラバス等を作成するにあたり、参考となるモデルカリキュラムを作成している⁵⁾。ここでは、モデルカリキュラム「幼児と健康」を参考に、一般目標（3）「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を見に付け、見通しをもって行動する」にあたると考えられる、安全管理、健康管理の授業内容について検討したい（表1）。

モデルカリキュラムでは、一般目標（3）の到達目標は「1）幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。」「2）幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。」「3）危険関しリスクとハザードの違いと完全管理を理解している。」とされている。ここで必要な授業内容として、安全管理の側面と健康管理の側面がある。まず、安全管理の側面では、幼児の安全教育に対する幼児の発達の特徴を踏まえたうえでの基本的な考え方、危険に関しリスクとハザードの違いを踏まえた安全管理や、幼

児の安全に関する能力（身体的、社会的、認知的、精神的）について理解させることが必要であろう。安全教育では、生活安全、交通安全、避難訓練、災害時などの緊急時に適切な行動が取れるようになることを含みつつ、子どもが安全についての構えを身に付けたり、危険性を予測できるようにしなければならない。さらに怪我の発生しやすい場所、遊具、時間といった物理的な環境要因、動線などの人的な環境要因、幼児期の怪我の特徴について身体的発達の特徴と関連づけながら、その予防について対応できるようにする。子どもが理解するにあたり、そのほとんどが体験を伴ったものであることを踏まえ、子どもを見守りながら、小さなリスクへの挑戦の機会を許容しつつ、安全への構えを身に付ける機会を保障することも保育者にとって重要な役割の一つであることを理解していく。授業の展開としては、「映像資料や事例等を活用し、挑戦的な遊びの場面におけるリスクと危険なハザードを理解する。→大学の構内の危険な場所や遊び方を探索するといった体験的活動をする。→リスクの意味とハザードの側面への対応について考察し、その対応を考える。」⁶⁾といった方法が考えられる。

次に健康管理側面として、幼児の健康管理（身体測定など）に対する幼児の発達の特徴を踏まえたうえでの基本的な考え方、幼児期に罹りやすい病気の特徴やアレルギー疾患についての基本的な知識を得るとともに、それらの発生メカニズムを理解したうえで病気の予防について考察できるようにする。授業の展開としては「園で見られる病気の実態に関して理解する→病気のメカニズムについて理解する→園内や家庭でできる病気の予防方法について考察する」⁷⁾といった方法が考えられる。

表1. モデルカリキュラム「幼児と健康」の全体目標、一般目標、到達目標

全体目標	当該科目では、領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。
一般目標（No.） 及び 到達目標 No.）	(1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。 1) 乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。 2) 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。 (2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する 1) 乳幼児の体の発達の特徴を説明できる。 2) 乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。 (3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。 1) 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。 2) 幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。 3) 危険関しリスクとハザードの違いと完全管理を理解している。 (4) 幼児期の運動発達の特徴を説明できる。 1) 乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。 2) 幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。 3) 日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。

参考資料：無藤隆代表『幼稚園教諭養成課程をどう構成するか～カリキュラムに基づく提案～』萌文書林,p.38,2017

Ⅲ. 「保育内容の指導法（健康）」の授業内容

「保育内容の指導法」は全領域で教職課程コアカリキュラム（以下、コアカリキュラム）が示された。⁷⁾

「保育内容の指導法（健康）」で習得すべき資質能力についての全体目標、一般目標、到達目標が示されている（表2）。保育教諭養成課程研究会は、コアカリキュラムをベースに「保育内容（健康）の指導法」というモデルカリキュラムを作成している。⁸⁾

ここでは、表2の一般目標（2）「幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。」と、その到達目標である「1）幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。」「2）領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連性を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。」「3）指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。」「4）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。」「5）領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。」を踏まえた授業内容について、安全管理と健康管理の面から検討する。

1. 安全指導と健康指導における保育の構想（計画立案）

安全指導と健康指導の保育の構想にあたり、表1の（2）-1）が示すように、幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想が求められる。また、領域「健康」のねらい及び内容を踏まえながら、子どもの特性（身体的特性、知的特性、精神的特性）を配慮したものでなければならない。

安全指導では、生活安全、交通安全、災害安全のそれぞれの側面から安全確保及び対応策を考える必要がある。生活安全では、保育現場で起きやすい事故について、なぜ起きるのか具体的に示しながら発生要因を考えていく。また園舎の構造及び周辺の危険な場所について、怪我防止策及び防犯対策の観点から把握して対策を講じる。交通安全では、道路の歩き方と注意点（歩道がある道とない道、ガードレールがある道、横断歩道等）、車や自転車の交通ルールの確認、道路に潜む危険について考えていく。災害安全では、地震、火災、土砂災害、風水害、津波、火山等について、対応策を検討する。

健康指導では、集団指導と個別指導に分けて考える必要がある。集団指導では、手洗いやうがいの指導、歯みがき指導、咳エチケット等について、健康指導を考えていく。個別指導では、子ども個々の健康状態を把握し、問題があれば改善すべき点を検討し指導していく。また慢性疾患やアレルギーをもつ子どもに対しては、保護者や主治医からの意見を参考に個別の対応策を検討していく。

学生がこれらの保育構想を立案するにあたり、グループの意見や人の考えを視覚的に理解するための方法として、コンセプトマップ⁹⁾やマインドマップ¹⁰⁾といった手法がある。これらを活用することで、より具体的な保育構想を展開することが期待できる。

2. 健康指導と安全指導の実践（教材研究）

立案した保育構想を実践するにあたり、子どもたちの視点から教材を考えることはもちろんであるが、子どもたちが必要性を感じ、自らやろうとする方向へ導く教材、つまり子どもが見通しをもって取り組もうとする教材が理想である。

安全指導では特定非営利活動法人CAPセンター・

表2. モデルカリキュラム「保育内容（健康）の指導法」の全体目標、一般目標、到達目標

全体目標	幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。
一般目標（No.） 及び 到達目標 No.）	(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2) 領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連性を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

参考資料：無藤隆代表『幼稚園教諭養成課程をどう構成するか～カリキュラムに基づく提案～』萌文書林,p.60,2017

JAPANが作成した「チャイルドビジョン」¹¹⁾などを使用し、大人と子どもの視界の違いを認識しながら、安全への配慮や危険な場所への理解を深める。園舎の構造及び周辺の危険な場所について、子ども向けのハザードマップを作成し、色分けしながら視覚的に理解させるのも有効な方法であろう。基本的な道路での交通ルールや避難時の心構えの標語「おかしも（おさない）（かけない）（しゃべらない）（もどらない）」及び防犯の標語「いかのおすし（知らないひとについていけない）（知らないひとの車にのらない）（大声で叫ぶ）（すぐに逃げる）（周りの大人にしらせる）」¹²⁾も有効な教材である。その場合、意味を理解させるにあたって、発達年齢を考慮しながら関連する絵本や紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター等の教材を選定していく。

健康指導では、うがいの指導において、手洗い歌に合わせた実際の正しい手洗いの映像を観ることで習得に役立てる方法もある。歯みがき指導では、動物のぬいぐるみ人形が虫歯で痛がっている様子を、虫歯の歯を見せながら、歯みがきの大切さ、正しい磨き方を伝えていくようにする。

以上を踏まえながら、模擬保育に向けた指導案を作成していく。作成にあたり、子どもへの関わり方、捉え方、環境構成、子どもへの援助方法を考慮しながら実施する。

3. 健康指導と安全指導の実践（模擬保育）と評価（振り返り）

立案した保育構想をもとに指導案を作成し、その指導案に基づいた模擬保育を実践する。実践後、模擬保育は、指導案を理解できたか、子どもへの関わり方や捉え方はどうであったか、環境構成はどうか、子どもへの援助方法は適切であったか等の振り返りを行う。振り返りでは、安全指導や健康指導が領域「健康」のねらいや内容が適切に設定されていたか、子どもに指導内容が伝わる保育であったか、環境構成は適切であったか、援助方法は適切であったかなどについて、省察や評価を行い、保育指導の改善に役立てていく。

IV. 「こどもと健康」と「保育内容の指導法（健康）」との繋がりについて

まず、安全管理とその指導についてみていく。「こどもと健康」の授業では、安全管理について、基礎的知識を踏まえた上で、映像資料や事例等を活用しながら、体験的な活動を通して、リスクの意味とハザードの意味を理解し、その対応を考えるといったことを実施した。それをうけて「保育内容の指導法（健康）」

では、実際に起きる可能性のある危険について、子ども自身が理解するために、安全指導実施していく内容となっている。これらの授業の流れから考えると、どちらの科目の内容が異なってしまうと、学生が一貫性をもった実践の学びが得られず、保育者として現場に立ったとき、領域「健康」のねらいや内容について、子どもに指導するのは困難であることが窺えた。

次に、健康管理とその指導についてみていきたい。「こどもと健康」の授業では、健康管理について、園で多くみられる病気の実態や病気のメカニズムについての理解し、園内や家庭でできる病気の予防方法を考察するといったことを実施した。それをうけて「保育内容の指導法（健康）」では、それらの病気を予防するために、手洗い方法や歯みがき方法を子ども自身が理解し、日々実践していく内容となっている。この流れから考えると、安全管理とその指導と同じで、「こどもの健康」「保育内容の指導法（健康）」で科目内容の方向性が違ってしまうと、学生が一貫性をもった実践の学びを得ることが困難であることが窺えた。

以上より、領域「健康」のねらいや内容を達成するためには、「こどもと健康」「保育内容の指導法（健康）」は一貫性をもった授業展開が必要であることが示唆されたといえよう。

領域論である「こどもと健康」では、子どもを取り巻く社会状況や教育的課題を踏まえた上で、「保育内容の指導法（健康）」の指導に必要な基礎的知識、基礎的技能を身に付けることが必要となる。そのためには、「保育内容の指導法（健康）」の指導に関する基盤となる考え方、専門的事項であることを踏まえて、授業内容を構想することが必要であろう。

指導法である「保育内容の指導法（健康）」では子どもの発達を踏まえながら、健康な心身の育成と健康な生活をつくり出す力を培うために、幼児期の健康、生活習慣の指導に関する知識・技能を習得しなければならない。そして、指導法の実践について具体的な学びを経験しつつ、情報機器及び教材について研究することが求められ、さらに模擬保育などを通して実践的な指導のあり方を身に付けていくことが求められる。

領域論と指導法の授業は、一貫性をもって成り立つことが、領域「健康」の本質的な理解の上では必要であるといえよう。

V. おわりに

子どもたちを取り巻く現代的な健康課題が問題視される中、子ども自身が危険を回避し、健康を守る術を身に付けることが必要である。その術を教え、身に付けるために指導をするのが保育者である。保育者を目

指す学生は、その意味をよく理解し、領域「健康」のねらいと内容について理解を深めてほしい。子どもの誕生から就学前までの教育を一貫して見通せる高い実践力と指導力を備え、地域の幼児期の教育を支える力量を備えた質の高い保育者の養成を今後も目指していきたい。

【文献】

- 1) 文部科学省：教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令の公布について（通知），平成29年11月17日，http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1398706.htm（2019年11月4日閲覧）
- 2) 文部科学省初等中等教育局教職員課：教育職員免許法・同施行規則の改正及び教職課程コアカリキュラムについて https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/27/1388004_2_1.pdf（2019年11月4日閲覧）
- 3) 保育教諭養成課程研究会：幼稚園教諭の養成の在り方に関する調査研究 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/19/1385791_6.pdf（2019年11月4日閲覧）
- 4) 保育教諭養成課程研究会：幼稚園教諭の養成の在り方に関する調査研究 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/19/1385791_6.pdf（2019年11月4日閲覧）
- 5) 保育教諭養成課程研究会（編）：幼稚園教諭養成課程をどう構成するか～モデルカリキュラムに基づく提案～，萌文書林，2017
- 6) 前掲5)
- 7) 文部科学省教職課程コアカリキュラムのあり方に関する検討会：教職課程コアカリキュラム，8，2017 http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/11/27/1398442_1_3.pdf（2019年11月4日閲覧）
- 8) 前掲5)
- 9) 矢島美由希：描くだけで毎日がハッピーになるふだん使いのマインドマップ，CCCメディアハウス，2012
- 10) 福岡 敏行：コンセプトマップ活用ガイドマップでわかる！子どもの学びと教師のサポート，東洋館出版社，2002
- 11) チャイルドビジョン：特定非営利活動法人CAPセンター・JAPAN [http://cap-j.net/wp/wp-](http://cap-j.net/wp/wp-content/uploads/2015/03/dl_childvision2014.pdf)

[content/uploads/2015/03/dl_childvision2014.pdf](http://cap-j.net/wp/wp-content/uploads/2015/03/dl_childvision2014.pdf)（2019年11月2日閲覧）

- 12) 榎原洋一，小林みゆき：これならわかる！子どもの保健演習ノート改訂第3版追補，診断と治療社，2019

★ 岩本圭子 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 専任講師
帝京短期大学 こども教育学科 非常勤講師

Relationship between the Subjects “Children and Health” and “Teaching Methodology for Childcare (Health)” in Nursery Teacher Training Schools : Focusing on Safety Management, Health Management, and the Teaching thereof

Keiko IWAMOTO

Department of Early Childhood Education, Teikyo Junior College

【Abstract】

This paper focuses on safety and health management in the subject “Children and Health,” and on safety and health teaching in the subject “Teaching Methodologies for Childcare (Health).” It also examines the ideal relationship between these two subjects. Research shows that in safety management, the subject content of “Children and Health” builds on basic knowledge to provide an understanding of risks and hazards through hands-on activities and consideration of appropriate responses. Furthermore, the subject “Teaching Methodologies for Childcare (Health)” involves teaching about safety such that children can understand the hazards that may occur. In health management, the content of “Children and Health” provides an understanding of the actual conditions and underlying mechanisms of diseases, and examines the methods to prevent illnesses. The content of “Teaching Methodologies for Childcare (Health)” focuses on how children should be taught to wash their hands and brush their teeth to prevent these diseases.

These findings suggest that if the orientation of the subject content differs between “Children and Health” and “Teaching Methodologies for Childcare (Health),” students cannot acquire a consistent understanding of practice. As such, when they are in the field as nursery teachers, they have difficulty in teaching children the goals and content of the subject of “Health.” Therefore, it is necessary for those in charge of these subjects to develop classes that are consistent with each other.

【Key words】 Children and health, teaching methodologies for childcare content (health), health teaching, safety guidelines, relationship between subject